

老年看護学実習2

単
位
数

2

時
間
数

90

3年次 5月～9月開講

目的

老年期にある対象の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できる。

目標

1. 老年期にある対象の特徴が理解できる。
 - 1) 患者の加齢による身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
 - 2) 家族および支える人々の問題が理解できる。

2. さまざまな健康の段階にある対象の看護が実施できる。

【慢性に経過する健康障害のある対象の看護】

- 1) 慢性に経過する対象の特徴が理解できる。
 - (1) 患者の健康障害の種類・段階・症状・治療が理解できる。
 - (2) 患者の生活背景、生活習慣と健康障害の関連が理解できる。
 - (3) 患者が健康障害についてどのように理解し、受け止めているか知る。
- 2) 病状の維持・回復を目指してセルフケア能力を高める援助が実施できる。
 - (1) 病態や症状の変化に応じた援助ができる。
 - (2) 患者教育が実施できる。
 - (3) 家族の理解および協力が得られるよう援助ができる。
- 3) セルフケアを継続するための援助が実施できる。
 - (1) セルフモニタリングが実施できるよう援助できる。
 - (2) セルフヘルプグループを活用するための援助ができる。

【リハビリテーションを必要とする対象の看護】

- 1) リハビリテーションを必要とする対象の特徴が理解できる。
 - (1) 患者の身体的特徴が理解できる。
 - (2) 患者・家族の心理的・社会的特徴が理解できる。
- 2) 日常生活行動の自立を目指した援助が実施できる。
 - (1) 機能障害に伴う日常生活の変化に応じた援助ができる。
 - (2) 機能障害の回復のための援助ができる。
 - (3) ADLの再獲得のための訓練や援助ができる。
 - (4) 廃用症候群予防のための援助ができる。
 - (5) 事故防止のための援助ができる。
- 3) 患者と家族の障害受容のための支援ができる。
 - (1) 障害受容の段階に応じた援助ができる。

【終末期にある対象の看護】

- 1) 終末期にある対象の特徴が理解できる。
 - (1) 患者の身体的特徴が理解できる。
 - (2) 患者の苦痛を身体的・精神的・社会的・霊的 (spiritual) な側面から理解できる。
 - (3) 患者を取り巻く家族の状況を知る。
 - 2) 疼痛・苦痛・不安の緩和にむけた援助が実施できる。
 - (1) 日常生活の援助ができる。
 - (2) 疼痛緩和の援助ができる。
 - (3) 精神的苦痛の緩和への援助ができる。
 - 3) 対象のQOLを考慮した援助が実施できる。
 - (1) 患者や家族が望んでいることを知る。
 - (2) 患者と家族の希望に沿った援助ができる。
 - (3) 家族への援助が実施できる。
 - 4) 人間の生命の尊厳と自己の死生観について考える。
 - (1) 対象と向き合う自己の態度について客観的に振り返ることができる。
 - (2) 人の生と死について考える。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、責任ある行動がとれる。
- 1) 医療チームにおける看護の役割を理解し、連携を図ることができる。
 - 2) 保健医療福祉の連携を図るための看護の役割を理解できる。

*実習内容・実習方法・実習評価の詳細は実習ハンドブック参照

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の科目履修が要件となる。

基礎看護学実習2、麻酔と手術療法、臨床看護総論、老年看護学概論、老年者の健康を支える看護、健康障害のある老年者の看護、長期に療養する老年者の看護